

串原の

…森の健康診断…

うちの山は元気かな？

2000年9月、大雨で山が崩れ矢作ダムが流木で埋め尽くされました。あの恵南豪雨被害から22年。今年の6月4日には全国から串原に120人が集まり森の健康診断を実施しました（裏面に報道記事）。

その結果はどうだったか？串原の山は元気か、また大雨が降っても大丈夫か、みんなで調べた結果を洲崎研究員が分析し、わかりやすく解説します。

恵みとともに災害ももたらす森林、その仕組みと付き合い方を、蔵治教授が解き明かします。

参加者は串原とその森で何を感じたのか。地元の奥矢作森林塾のこれまで取り組みと串原中学校の新たな取り組みを紹介して地域のミライを展望します。

誰でも参加できます、ぜひおいでください。

くしはら森の健康診断 2022 報告会

2022年11月27日（日）

13:30~15:30

串原コミュニティセンター サンホール

●基調講演

「災害のない森づくりと地域づくり」

蔵治光一郎（東京大学教授）

●調査結果報告

洲崎燈子（矢作川研究所）

●くしはらの森と村づくり

奥矢作森林塾の挑戦

串原中学校の取り組み

●参加者の声

●くしはらの森のミライを展望する



# 森を健診 間伐量判断へ

## 岐阜・串原地区 結果分析 11月に報告会



簡易計測器で樹高を調べる参加者たち

岐阜県恵那市串原地区の山林で4日、間伐が十分かなど人工林の健全度を市民が検証する「くしはら森の健康診断（森健）」が開催された。山林所有者（山主）

も初めて参加した。結果は専門家が分析し、11月27日に報告会がある。今回の森健には地元や愛知などから11歳〜78歳の約120人が参加。間伐ホ

ランティアの神農瑞希さん（50）（愛西市）ら女性が3分の1と多く、授業の一環で東京大学の1、2年生約20人も加わった。参加者は15班に分かれ、それぞれ2か所の人工林を調査した。調査地点では、区画（100平方メートル）内のヒノキ、スギの本数や直径、さらに簡易の計測器で樹高を調べ、それらの結果から、人工林の「超過密」「適正」

などを判断した。自身の人工林を調査した地元の山主、原田宏明さん（55）は「管理は任せっきりで、最近は山林に入ったこともない。今回の結果を次の間伐計画に生かしたい」と話していた。森健は2000年の東海豪雨で山崩れが相次いだことをきっかけに、05年から10年間、愛知、岐阜、長野県の矢作川流域で実施され、計3000人余りが参加した。串原地区での開催は10年ぶり。これまでの調査では、約3分の2で間伐が不十分なため、不健康な状態であることがわかったという。

読売新聞 6月7日朝刊

主催／串原森の健康診断実行委員会

\* 構成団体 串原自治連合会／矢作ダム管理所／  
東京大学生態水文学研究所／（特非）奥矢作森林塾／  
（特非）夕立山森林塾／矢作川水系森林ボランティア協議会／  
矢作川森の研究者グループ／恵那市串原振興事務所

問合せ：奥矢作森林塾：〒509-7814 岐阜県恵那市串原 1149 番地  
電話 0573-52-2808